

みんなが知りたい、 「発達の遅れ」を乗り越え 社会人になるまで

連続セミナー 第13回

わが子の「発達の遅れ」、その改善に取り組む保護者たち

幼児期からの学習が社会人になって実を結ぶ

今回のテーマは、社会的な問題としてクローズアップされている、「発達の遅れ」をもつ子どもの就職について。「就労支援」という特別な視点ではなく、どの子にとっても当たり前の「就職すること、社会人になること」という視点で考えます。

M君（現在、20歳）は幼児期に「広汎性発達障害」と診断され、障害児通園施設→幼稚園→普通学級→特別支援学級（小学3年生から）→中学校（特別支援学級）、全日制高校（単位制）を卒業。その後、就職準備の施設に入るものの、自ら活動して昨年春に就職しました。両親によると、M君の成長は「同じ障害児通園施設に通う保護者の紹介で3歳から中学3年生まで続けた学習」に尽きます。諦めずに学習に取り組んだ結果が現在のM君です。

後援 埼玉県（障害者福祉推進課）、埼玉県教育委員会、埼玉県社会福祉協議会、川口市（子育て相談課）、川口市教育委員会、川口市社会福祉協議会
赤い羽根共同募金助成事業

- 開催日時／2018年10月13日（土）
9:45～12:00（受付開始9:35～）
- 会場／メディアセブン コミュニケーションスタジオ
川口駅東口「キューポ・ラ」7階 048-227-7622
<http://www.mediaseven.jp/>
- 定員／30名（対象=保護者） ● 参加費／800円
申し込み／氏名・住所・職業・連絡先のほか、(1)「お子さまの年齢・学年」(2)「子育てで困っていること、聞きたいこと」を明記してメールか電話／ファックスで当NPO法人へ（お早めにお申し込みください）

お話（体験発表）

社会人2年生の母親（会社員）

4歳上のお姉さんとは異なり、2歳過ぎても言葉が出なかったM君。保健センターで紹介された障害児通園施設に通ううち、「なんとかしなければ」と考え、知り合いの紹介により3歳からエルベテークで学習開始。やがて、発声・発音、相手の目を見て話す（相手の話を聞く）という学べる状態にたどり着きました。小学3年生からは特別支援学級、力をつけての交流教室など、山あり谷ありの成長を学習が支えました。現在、職場では主にパソコン業務を行ない、周囲からの評価・信頼も上々です。

進行と質疑応答

河野俊一さん

（エルベテーク代表／
医療法人エルベ理事）

1996年、民間の教育機関エルベテーク設立。発達の遅れと課題をもつ子どものためのコースも開設し、現在に至る（川口／青山／ロサンゼルス）。著書に『自閉症児の学ぶ力をひきだす』（日本評論社）『誤解だらけの「発達障害」』『子どもの困った！行動がみるみる直るゴールデンルール』（いずれも新潮社）など。2017年5月に『発達障害の「教える難しさ」を乗り越える』（日本評論社）と『The Foundations of Learning』（Amazon）刊行。

主催

NPO 法人 Education in Ourselves
教育を軸に子どもの成長を考えるフォーラム

埼玉県さいたま市南区辻 5-6-12-408
〒336-0026

TEL & FAX 048-837-6926
携帯 080-8726-1000

E-mail info@education-in-ourselves.org
<https://www.education-in-ourselves.org>

10月13日セミナー参加申込書

2018年 月 日

氏名	職業	(1) お子様の年齢・学年
住所		(2) 子育てで困っていること、聞きたいこと
連絡先（電話・メールなど）		